

千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第5週 (1/29-2/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		5週	4週	3週	2週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	1/29-2/4	1/22-1/28	1/15-1/21	1/8-1/14	1/22-1/28
			5週	4週	3週	2週	4週
小 児 科	RSウイルス感染症		2 0.11	0 0.00	3 0.17	10 0.56	34 0.25
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.11	0 0.00	3 0.17	24 0.18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	52 2.89	23 1.28	37 2.06	39 2.17	337 2.50
	感染性胃腸炎		90 5.00	94 5.22	136 7.56	118 6.56	645 4.78
	水痘		3 0.17	2 0.11	1 0.06	4 0.22	41 0.30
	手足口病		1 0.06	1 0.06	5 0.28	2 0.11	11 0.08
	伝染性紅斑		0 0.00	2 0.11	1 0.06	1 0.06	10 0.07
	突発性発しん		5 0.28	5 0.28	9 0.50	9 0.50	23 0.17
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	5 0.28	5 0.28	6 0.04
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★★	1,806 64.50	1,619 57.82	1,432 51.14	669 23.89	13,533 63.24
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	5 1.00	5 1.00	2 0.40	18 0.51
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	細菌性赤痢	男性	30歳代	病原体の検出
結核	女性	60歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第5週は、結核2件(17)、細菌性赤痢1件(1)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第5週のコメント

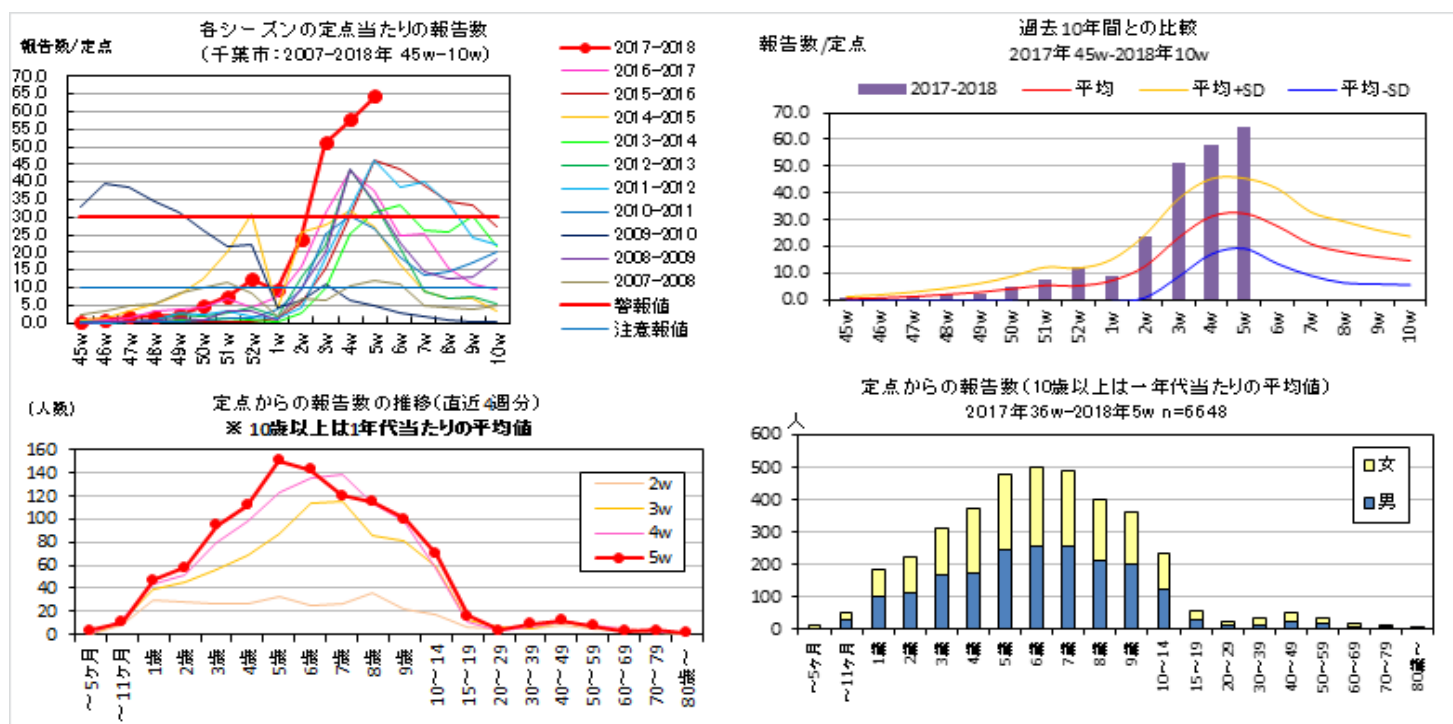
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.89となった。過去10年の同時期と比べると多め。
<インフルエンザ> 前週より増加し64.5となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。60を上回るのは、2005年第7週以来13年ぶり。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第4週は前週より更に増加し流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では福岡県、大分県、埼玉県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市の2018年第5週は前週より更に増加し64.5となりました。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多で、平均+2SDを上回り非常に大きな流行となっています。定点当たりの報告数が60を上回るのは、2005年第7週(60.11/定点)以来13年ぶりとなります。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区(105.4/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最多、一年代当たりでは5歳で最も多く発生報告がありました。

型別迅速診断結果では、第5週はA型が16.3%、B型が72.4%、その他A型及びB型が0.1%、A型又はB型が11.2%となっており、B型が7割以上を占めています。今シーズンである2017年第36週から2018年第5週までの累積報告数(n=6648)によると、性別では男性が49.8%(3314名)、女性が50.2%(3334名)で、年齢階級別の一年代当たりでは6歳(7.5%:498名)、7歳(7.4%:491名)、5歳(7.2%:480名)の順に多くっており、20歳未満は全体の73.0%、10歳未満は全体の50.9%となっています。また、過去10年の報告数との比較では、40歳代以上で平均+SDを上回る状況となっています。



第5週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過	警報	警報	警報	警報	警報	警報	警報
過去10年の同時期との比較	最多	最多	とても多い	最多	最多	最多	多い
昨年の同時期との比較	多い	多い	多い	多い	多い	多い	多い

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第4週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、山形県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等レベルとなっています。千葉市の2018年第5週は前週より増加し2.89となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(5.0/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第5週までの累積報告数(n=725)によると、性別では男性が54.5%(395名)、女性が45.5%(330名)で、年齢階級別では5歳(14.9%:108名)、4歳(13.2%:96名)、5歳(12.7%:92名)の順に多くなっています。

